



最新情報は、HPをご覧ください

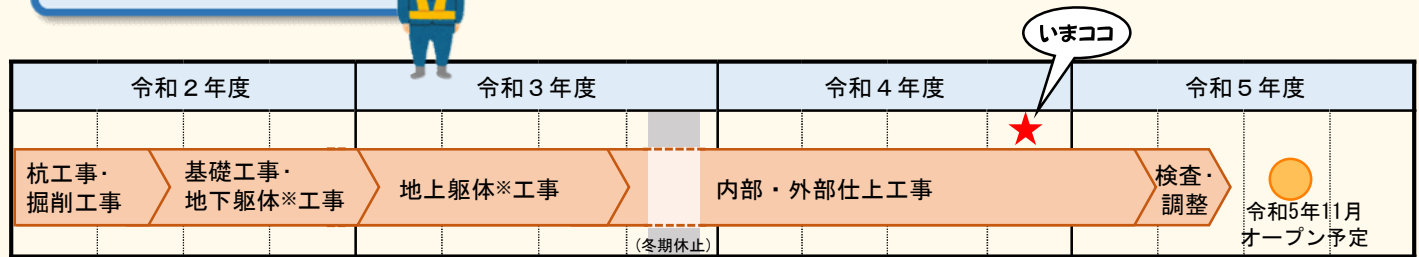
発行・編集 旭川市庁舎建設課  
公共建築課  
tel:25-7597

choshakensetsu@city.asahikawa.lg.jp

旭川市役所は、令和5年度に新庁舎へと生まれ変わります

市民の皆さんの暮らしを支える新しい庁舎の建設工事に関する情報を「新庁舎建設NEWS」として皆さんにお伝えしていきます。

## 工事の進捗



※ 躯体(くたい)とは、柱、壁、梁、床など建物を支える骨組みのことです。

12月



外部は、ほとんどの工事が終わり、低層階の一部出ている部分の防水工事を行っています。

内部は、引き続き壁・天井の仕上げを進め、執務室の床パネルの取付けも始まっています。

電気や設備も仕上工事の作業に合わせ配管・配線工事を進め、床下に張り巡らす電気や通信の配線作業にも取りかかっています。

この冬は休止せず、8月の完成に向けて工事を進めています。

1,2階に設置する低層用エレベーターの設置が始まりました。全面ガラス張りになっているので内部の機械を見ることができます。



1階内部はまだ本格的な仕上工事には入っていません。資材の仮置きや加工作業場所にもなっていることから、一番最後に取りかかります。

3階執務室の様子です。床パネルを設置して完成時の床の高さになり、だんだん出来上がりが想像できるようになりました。

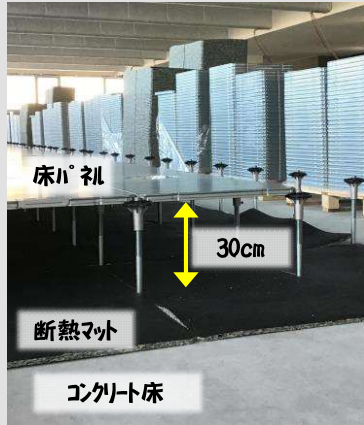


令和4年12月28日（水）



吹出口

床パレ



床パレ

30cm

断熱マット

コンクリート床

執務室の床下にはコンクリート床との間に30cmの空間を設けています。この空間は電源や通信の配線を通し、机のレイアウトに合わせて取り出したりするほか、空調機からの温風（冷風）が床下の空間を通り吹出口から執務室に出るようになっています。

令和5年1月19日（木）



完成イメージ

議場の大空間の天井面に見えるアーチ状の木質梁の仕上げの作業中です。一番高いところは10mの高さになるため、仮設の床を組み作業しています。

## 特集 新庁舎で使う市有林材

～その1～

8階議場の天井や壁、1,2,9階の天井に使っている木材は、東旭川、江丹別、神居の市有林から伐採したカラマツやトドマツです。今号と次号にわたり、伐採後の木材の加工についてご紹介します。



令和2年度の秋から冬にかけ伐採した原木を、雪解けを待って山から製材工場に運搬します。幹径24～46cm程度、樹齢50年以上の原木です。（このまま夏を迎えると腐食や虫害に襲われます）



工場では、所定の大きさに切り分けます。年輪の入り方により強度や変形のしやすさなどが変わるため、丸太の特性を見極め、無駄を最小限にしつつ切り方を決めるのも重要な技術です。



製材した木材は、用途に合わせ最適な含水率になるまで乾燥させます。急激な乾燥はひび割れにつながるため、6か月間屋外で乾燥させた後、人工乾燥機に入れて所定の含水率にします。



議場の梁は、厚さ3cmほどの製材を貼り合わせて作る断面が24×66cmの大断面集成材で、大空間の屋根の重さや地震の力にも耐える高強度の木質梁です。湾曲させるために型となる治具を使って成形しながら接着剤で圧着します。



建物本体の鉄骨梁とボルトで接合するため、木質梁の端部に鉄骨の接続部材を取り付けます。梁に切り込みを入れ接続部材を差し込み金属棒を貫通させ一体化させます。（建物への取付はNEWS Vol. 14に掲載）

## 市有林材を使う理由

旭川市の森林面積は総面積の50%以上を占めています。温暖化防止や水源確保などSDGsの達成にも密接な関係を持つ森林は、計画的に植林、手入れ、伐採を繰り返すことで健全な状態を維持し続けることができます。木材の需要を高めることは、林業や木材産業を支援し、森林の整備や保全につながります。新庁舎では、建物に使うカラマツやトドマツのほか、庁舎内に設置する旭川家具の一部にも市有林から伐採した広葉樹を使います。